

2013年9月6日

日興アセットマネジメント株式会社



日興グローイング・ベンチャーファンド

足元の株式市場の動向と今後の見通し

〈ファンドマネージャーとの一問一答〉

日本株式市場では、7月下旬以降、主に中小型株式を中心に下落傾向が目立っています。本レポートでは、足元の株式市場について、当ファンドのマザーファンドの投資顧問会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」による見解をQ&A形式でご紹介します。

Q1

足元の**日本株式市場の調整**をどのようにみていますか？

A. 日本経済や企業収益の鮮明な回復基調が確認できており、足元の株式市場ではこの回復が評価されていないと考えます。したがって、順調に回復し続ける実体経済を、もう一段織り込む前の踊り場に過ぎない、と捉えています。

Q2

足元の株式市場の調整局面で

どのような運用を行ないましたか？

A. 基本的には、組入銘柄については継続保有のスタンスを維持しました。ただし、組入企業各社の短期業績から中長期成長戦略を確認し続けながら、割安度が高まったと判断される銘柄は追加投資をしました。

Q3

銘柄選定の際、企業のどのような点を重視しますか？

A. 事業の革新性や成長性を重視します。そして、そうした革新性・高成長性に比べ、株価が割安な水準に留まっているかどうかを判断します。

Q4

ここから年末にかけての**日本株式市場**をどのようにみていますか？

A. 足元で、全般的に株価の過小評価が続いていると判断されるため、日本経済や企業収益の好調さを織り込みながら、実体に見合った株価水準に回復すると見込んでいます。

Q5

今後注目するイベントはありますか？

A. 当ファンドでは、株式公開後5年以内の企業を主な投資対象としていることから、IPO(株式の新規公開)の秋口から年末にかけての盛り上がり注目しています。

上記Q1からQ5のA(回答)の詳細は次ページ以降にご紹介します。

上記は、「日興グローイング・ベンチャーファンド」のマザーファンドの投資顧問会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」からのコメントです。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、運用方針は変更される場合があります。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

Q1

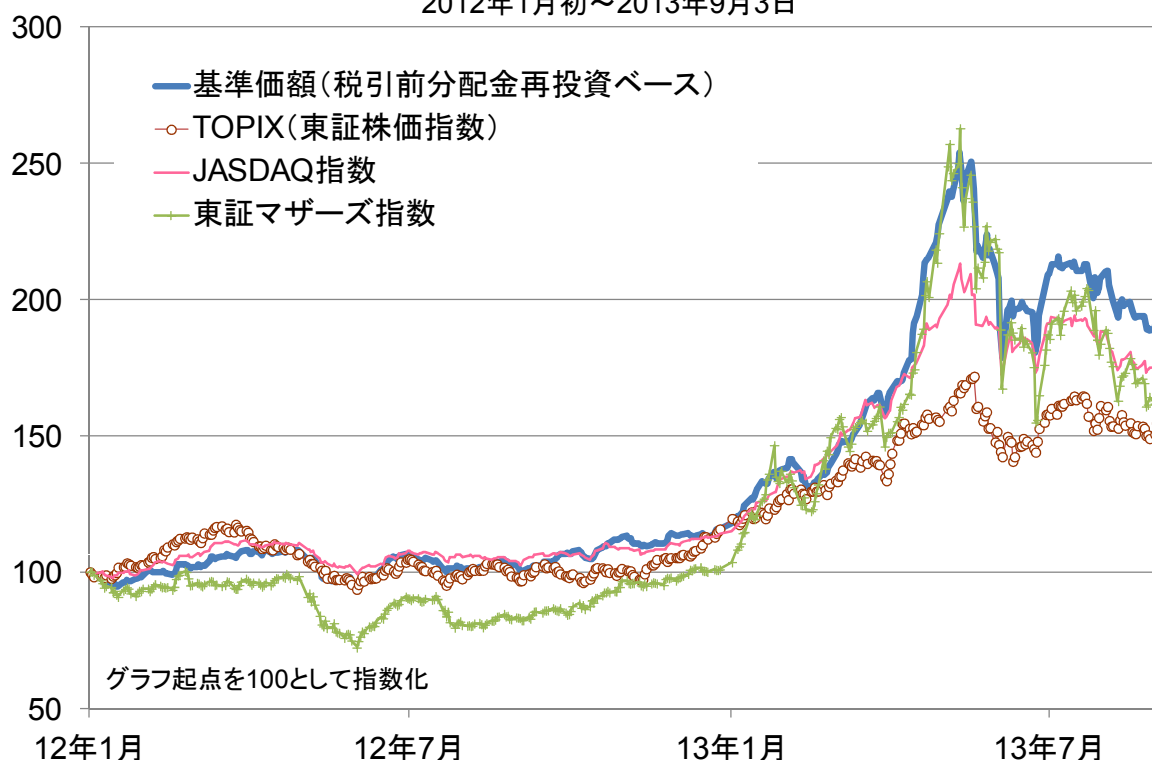
足元の日本株式市場の調整を どのようにみていますか？

足元では、先物主導で値動きの荒い展開が続いています。ただし、日本経済や企業収益の鮮明な回復基調は確認できており、足元の株式市場ではこの回復が評価されていないと考えます。したがって、順調に回復し続ける実体経済を、もう一段織り込む前の踊り場に過ぎない、と捉えています。

A.

現在の株式市場は、為替市場の動向や米国の金融政策の行方、中国経済の動向など外部要因の影響を短期的に受けていますが、今後は世界の中でも堅調な日本の実体経済の動向が株価に反映されていくと考えています。

＜当ファンドの基準価額および主要指数の推移＞
2012年1月初～2013年9月3日



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※基準価額は、信託報酬控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

※上記株価指数はいずれも当ファンドのベンチマークではありません。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

上記は、「日興グローイング・ベンチャーファンド」のマザーファンドの投資顧問会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」からのコメントです。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の方見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、運用方針は変更される場合があります。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

Q2

足元の株式市場の調整局面で どのような運用を行いましたか？

基本的には、組入銘柄については継続保有のスタンスを維持しました。ただし、組入企業各社の短期業績から中長期成長戦略を確認し続けながら、割安度が高まったと判断される銘柄は追加投資をしました。

A. 当ファンドでは中長期的な視点で革新的な高成長企業を厳選し、組入銘柄の業績は、丹念に調査し続けています。組入銘柄の成長性に対する見方については、総じて、足元で変更はありません。したがって、株価は企業の実体を反映する水準に遠からず収斂するものと考えています。

ご参考:最近、企業面談の際に感じていること

各種報道で、日本企業の業績が好調であることは伝えられていると思います。実際に、私どもが日々経営者の方々と面談する中でも、多くの企業で業績の進捗状況が期初の想定を上回っていることを実感しています。特に、先行きについて強気の見方を持っている経営者が増えており、なかには、設備投資に積極的な企業も見受けられます。こうした前向きな循環が多くの企業で広がっていくようであれば、日本の景気回復に弾みがつくと考えられます。

Q3

銘柄選定の際、企業のどういう点を重視しますか？

事業の革新性や成長性を重視します。

A. まず、その企業が成長を遂げると業界や経済・社会に革新をもたらす活性化に大きく貢献すると見込まれるかどうか注目し、次に、そうした革新性・高成長性に比べ、株価が割安な水準に留まっているかどうかを判断します。

また、新しい企業ほど短期的に大きな業績変化が起こり得るため、定期的に経営者と直接面談するなど、徹底した継続調査が不可欠だと考えています。

上記は、「日興グローイング・ベンチャーファンド」のマザーファンドの投資顧問会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」からのコメントです。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、運用方針は変更される場合があります。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

Q4

ここから年末にかけての 日本株式市場をどのように みていますか？

A.

足元で、全般的に株価の過小評価が続いていると判断されるため、日本経済や企業収益の好調さを織り込みながら、実体に見合った株価水準に回復すると見込んでいます。

日本経済は、順調に回復軌道を進んでいると考えられます。2013年4-6月期のGDP成長率(速報値)は、前期比年率換算で+2.6%となりました。2四半期連続で比較的高めの成長となったことで、景気の底堅さは示されたといえるでしょう。

また、設備投資の先行きを示す指標として注目度の高い機械受注統計(船舶・電力除く民需、季節調整値)も、4-6月期は前期比+6.8%と5四半期ぶりのプラスに転じました。

さらに、4-6月期は、企業業績も概ね好調な内容でした。報道によると、全産業(3月期決算企業1519社(金融、電力、新興などは除く))の4-6月期経常利益は前年比+40%と、第1四半期として過去最高だった2007年4-6月期の9割近い水準に回復しました。さらに、通期の業績予想を上方修正した企業数は前年同期から倍増し、通期経常増益率の見通しも、わずかながら期初時点より引き上げられました。

実際に、日々経営者の方々と面談させて頂いても、多くの企業で業績の進捗状況が期初想定を上回っていることが確認できています。

Q5

今後注目するイベントはありますか？

A.

私どもでは、森よりもむしろ1本1本の木を見ることが重要だと考えるため、マクロ的なイベントには、あまりとらわれないようにしています。

当ファンドでは、株式公開後5年以内の企業を主な投資対象としていることから、IPO(株式の新規公開)の秋口から年末にかけての盛り上がり注目しています。

2006年のライブドアショックや2008年のリーマン・ショック後の世界的な景気後退の影響を受け、わが国のIPOの件数は大きく減少し、2009年には年間19社という水準にまで落ち込みました。しかしその後は着々と回復し、2012年には46社と3年連続での増加となりました。2013年も30社の上場が決まっており(2013年8月末時点)、昨年よりもペースを高めています。新しい元気な企業が続々と生まれ育つことは、株式市場活性化の起爆剤の一つとなるだけでなく、我が国経済の活性化にも不可欠であり、その意味でIPOの動向には非常に注目しています。

上記は、「日興グローイング・ベンチャーファンド」のマザーファンドの投資顧問会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」からのコメントです。当コメントは、資料作成時点における市場環境もしくは今後の運用方針等について、運用担当者の方の見方あるいは考え方などを記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、運用方針は変更される場合があります。

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

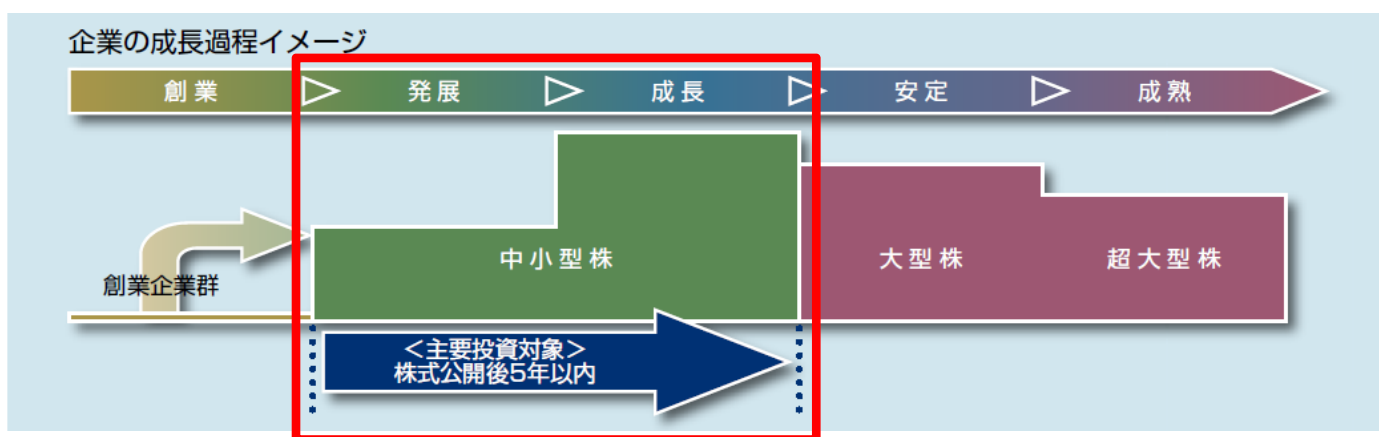
「日興グローイング・ベンチャーファンド」は
株式公開後5年以内の「高成長新興企業」
 に投資を行なうファンドです。

ファンドの特徴

1

主に企業の「発展」「成長」が最も期待できる株式公開後5年以内の「高成長新興企業」に投資を行います。

＜主要投資対象について＞



※上図は企業の成長過程および当ファンドの投資対象をイメージしたものであり、株価水準や企業の魅力度等を示唆したものではありません。

ファンドの特徴

2

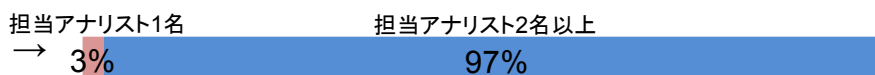
徹底的に掘り下げた企業調査により「高成長新興企業」を
 厳選、抽出します。

当ファンドでは、成長株に特化した独立系の投資顧問会社である「エンジェルジャパン・アセットマネジメント」が徹底したボトム・アップリサーチを行ない、有望企業を厳選しています。なお、中小型株式の魅力的な投資機会を積極的に捉えていくために、通常、アナリストが調査対象としていない銘柄についても、独自の調査を通じて投資を行なっています。

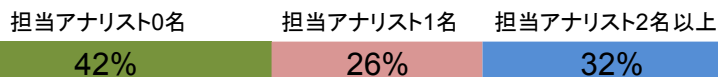
＜企業別の担当アナリスト数の比較＞

2013年8月末

日経平均株価を構成する225銘柄



「日興グローイング・ベンチャーファンド」の組入銘柄



信頼できると判断した情報をもとにエンジェルジャパン・アセットマネジメントが作成

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績とポートフォリオの内容

＜設定来の基準価額と純資産総額の推移＞
2003年7月18日（設定日）～2013年9月3日



※基準価額は、信託報酬控除後の1万口当たりの値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。
 ※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上の点にご留意ください。

＜株式組入上位10銘柄＞
2013年7月末現在

(銘柄数: 53銘柄)

	銘柄名	業種	比率
1	ホシザキ電機	機械	3.81%
2	スタートトゥデイ	小売業	3.71%
3	ポーラ・オルビスホールディングス	化学	3.67%
4	大研医器	精密機器	3.59%
5	クックパッド	サービス業	3.51%
6	エス・エム・エス	サービス業	3.49%
7	タケエイ	サービス業	3.33%
8	アークランドサービス	小売業	3.28%
9	日本海洋掘削	鉱業	3.20%
10	ブロードリーフ	情報・通信業	3.09%

※「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況であり、比率は対純資産総額です。

※上記銘柄について、将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。
 ※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 一般に中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高いと考えられます。

【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりを要因となります。

【未上場株式などの組入リスク】

<低流動性資産のリスク>

未上場会社の発行する株式など流動性の低い証券については、保有証券を直ちに売却できないことも考えられます。また、このような証券の転売についても契約上制限されていることがあり、ファンドの資金流動性に影響を与え、不測の損失を被るリスクがあります。

<財務リスク>

未上場会社の発行する株式などは、会社の沿革、規模などの観点から、社会、政治、経済の情勢変化に大きな影響を受け易く、予想に反し、会社の業績、資金調達などにおいて懸念が生じる場合もあります。このような懸念が生じた場合、時価評価額の見直しが行なわれるため、基準価額が影響を受けることも考えられます。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

(次頁に続きます)

■当資料は、投資者の皆様へ「日興グローイング・ベンチャーファンド」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

お申込みに際しての留意事項②

(前頁より続きます)

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様にご帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

ファンドの特色

- 1 高成長新興企業の株式に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。
- 2 エンジェルジャパン・アセットマネジメントによる徹底したボトムアップ・リサーチにより有望企業を厳選します。
- 3 エンジェルジャパン・アセットマネジメントから投資助言を受けます。

お 申 込 め ち

商品分類	追加型投信／国内／株式
ご購入単位	ご購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2018年7月17日まで(2003年7月18日設定)
決算日	毎年7月17日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
ご換金価額	換金請求受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 (2014年1月1日以降) ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

手 数 料 等 の 概 要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時手数料率は、 <u>3.15%(税抜3%)</u> を上限として販売会社が定める率とします。 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金時の基準価額に <u>0.5%</u> の率を乗じて得た額

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬	純資産総額に対して年率 <u>1.995%(税抜1.9%)</u> を乗じて得た額
その他費用	組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息 など ※その他費用については、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社
受託会社	野村信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]http://www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
かざか証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第58号	○			

(50音順、当資料作成日現在)